

This Page Is Inserted by IFW Operations  
and is not a part of the Official Record

## **BEST AVAILABLE IMAGES**

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images may include (but are not limited to):

- BLACK BORDERS
- TEXT CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES
- FADED TEXT
- ILLEGIBLE TEXT
- SKEWED/SLANTED IMAGES
- COLORED PHOTOS
- BLACK OR VERY BLACK AND WHITE DARK PHOTOS
- GRAY SCALE DOCUMENTS

**IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.**

**As rescanning documents *will not* correct images,  
please do not report the images to the  
Image Problems Mailbox.**

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 登録実用新案公報 (U)

(11) 実用新案登録番号

第3042847号

(45) 発行日 平成9年(1997)11月4日

(24) 登録日 平成9年(1997)8月13日

(51) Int.Cl.*	識別記号	庁内整理番号	F I	技術表示箇所
B 6 5 D	43/06		B 6 5 D 43/06	
B 3 1 D	5/02		B 3 1 D 5/02	
B 6 5 D	1/26		B 6 5 D 1/26	Z

評価書の請求 未請求 請求項の数 2 O L (全 6 頁)

(21) 出願番号 実願平9-3300

(22) 出願日 平成9年(1997)4月25日

(73) 実用新案権者 390022264

岩井通商株式会社

東京都千代田区永田町2丁目4番2号

(72) 考案者 三野 弘彦

東京都千代田区永田町2丁目4番2号 岩井通商株式会社内

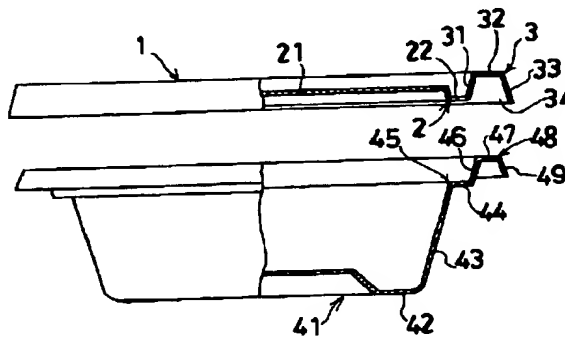
(74) 代理人 弁理士 福田 武通 (外2名)

(54) 【考案の名称】 紙製蓋材

(57) 【要約】

【課題】 著しく強度が高くて、容器の開放上面を確実に閉塞することができる蓋材を、厚手の紙材をプレスにより絞り成形することによって製造することができる。

【解決手段】 1枚の厚手の紙材を原材料として、プレスによる絞り成形によって蓋面部2と、前記蓋面部2の周縁から外向きに設けた鍔部3とを有する一体に成形した紙製蓋材であって、前記鍔部3は、蓋面部2の外端縁から上方に向かって延びる第1の縦部分31と、前記第1の縦部分31の上端から外側にほぼ水平に延びる第1の横部分32と、前記第1の横部分32の外端縁から下方に向かって延びる第2の縦部分33とで構成することにより、前記第1の縦部分31の外側と、第1の横部分32の下側、及び第2の縦部分33の内側とにより囲まれる下面開放の溝部34を構成した。



1

## 【実用新案登録請求の範囲】

【請求項1】 1枚の厚手の紙材を原材料として、プレスによる絞り成形によって蓋面部と、前記蓋面部の周縁から外向きに設けた鍔部とを有する一体に成形した紙製蓋材であって、

前記鍔部は、蓋面部の外端縁から上方に向って延びる第1の縦部分と、前記第1の縦部分の上端から外側にほぼ水平に延びる第1の横部分と、前記第1の横部分の外端縁から下方に向って延びる第2の縦部分とで構成することにより、前記第1の縦部分の外側と、第1の横部分の下側、及び第2の縦部分の内側とにより囲まれる下面開放の溝部を構成したことを特徴とする紙製蓋材。

【請求項2】 蓋面部には、周縁部分を除いて上方に盛り上がる浮き上がり部を形成することにより、浮き上がり部の外周縁と鍔部との間に上方が開放する溝を形成した請求項1に記載の紙製蓋材。

## 【図面の簡単な説明】

【図1】 本考案の実施の形態を示す斜視図である。

【図2】 一部を欠載した正面図である。

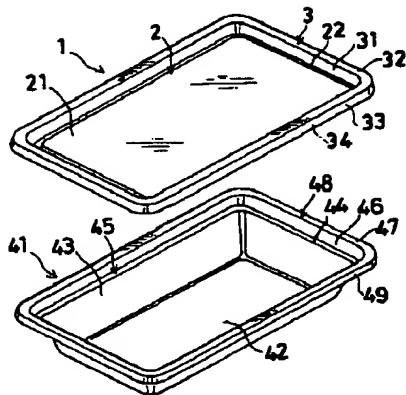
10

\*

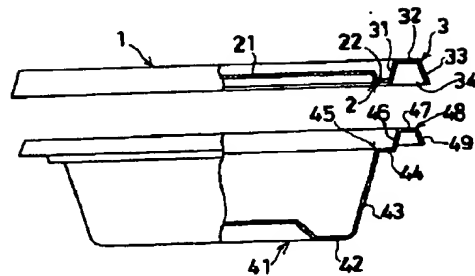
## \*【符号の説明】

- 1 紙製蓋材
- 2 蓋面部
- 3 鍔部
- 21 浮き上がり部
- 22 溝
- 31 第1の縦部分
- 32 第1の横部分
- 33 第2の縦部分
- 34 溝部
- 41 紙製容器
- 42 底面部
- 43 側壁部
- 44 第1の横部分
- 45 第1の段部
- 46 第1の縦部分
- 47 第2の横部分
- 48 第2の段部
- 49 第2の縦部分

【図1】



【図2】



**【考案の詳細な説明】****【0001】****【考案の属する技術分野】**

本考案は、特に食料品を内部に収納する容器の開放上面に被着する紙製蓋材に関するものである。

**【0002】****【従来の技術】**

周知のように、弁当箱の蓋材、惣菜の収納容器等の蓋材は、薄手のプラスチックにより成形されている。

**【0003】****【考案が解決しようとする課題】**

したがって、強度が小さくて破れやすいため、閉蓋状態において外部からの衝撃に対し破損して内部の食料品が漏れ出たり変形することがある。しかも、容器の内部を十分に密閉できないので、食料品等を収納する容器の蓋材としてはきわめて不適当であるばかりでなく、実用的ではない。

このため、強度が高くて破損し難いし、しかも容器の開放上面を確実に密閉できる蓋材が要望されている。

**【0004】****【課題を解決するための手段】**

本考案は前記従来の欠点に鑑み、しかも従来からの要望に対応するために提案されたもので、1枚の厚手の紙材を原材料としてプレスによる絞り成形によって蓋面部と、前記蓋面部の周縁から外向きに設けた鍔部とを有する一体に成形した紙製蓋材であって、前記鍔部は、蓋面部の外端縁から上方に向って延びる第1の縦部分と、前記第1の縦部分の上端から外側に略水平に延びる第1の横部分と、前記第1の横部分の外端縁から下方に向って延びる第2の縦部分とで構成し、前記鍔部には、前記第1の縦部分の外側と、第1の横部分の下側、及び第2の縦部分の内側とにより囲まれる下面開放の溝部を構成したことを特徴とする。

**【0005】**

また、本考案によれば蓋面部には、周縁部分を除いて上方に盛り上がる浮き上

がり部を形成することにより、浮き上がり部の外周縁と鐳部との間に上方が開放する溝を形成した構成である。

【0006】

【考案の実施の形態】

以下に本考案の具体的構成を図面に示す実施の形態に基づいて説明すると、本考案の紙製蓋材1は、1枚の厚手の紙材を原材料として、プレスによる絞り成形によって、蓋面部2と、前記蓋面部2の周縁から外向きに設けた鐳部3とを一体に成形した構成である。

【0007】

前記鐳部3は、前記の蓋面部2の外端縁から上方に向って延びる第1の縦部分31と、前記第1の縦部分31の上端から外側に向かってほぼ水平に延びる第1の横部分32と、前記第1の横部分32の外端縁から下方に向って斜めに延びる第2の縦部分33とにより構成されている。

【0008】

したがって、前記鐳部3には、第1の縦部分31の外側と第1の横部分32の下側及び第2の縦部分33の内側とにより囲まれる下面が開放する溝部34が構成されることになる。

【0009】

そして、前記蓋面部2には、周縁部分を除いて上方に盛り上がる浮き上がり部21を形成すると、前記浮き上がり部21の外周縁と前記鐳部3との間に上方が開放する溝22が形成される。

【0010】

本考案の紙製蓋材1は前記した構成であって、特に、1枚の厚紙を原材料としてプレスにより一体に絞り成形した紙製容器41を被着する場合に使用することができる。

【0011】

前記紙製容器41は、底面部42の周縁から立ち上がる側壁部43の上端部分及び前記上端部分の上端から外側に延びる第1の横部分44とにより構成される第1の段部45と、前記第1の段部45の外縁から立ち上がる第1の縦部分46

及び前記第1の縦部分46の上端から外側に延びる第2の横部分47とにより構成される第2の段部48とを有し、前記第2の横部分47の外周縁には斜め下方に下る第2の縦部分49を形成して第1の段部45、第2の段部48とともに紙製容器41の上縁部分を補強することができる。

#### 【0012】

前記した構成の紙製容器41の開放上面に本考案の紙製蓋材1を被着すると、溝22の底面部分が第1の横部分44に密着し、また第1の縦部分46、第2の横部分47及び第2の縦部分49が溝部34の内部に密に嵌着することになる。

したがって、紙製容器41を十分に密に閉塞することができるし、溝22と第1の横部分44、若しくは第1の横部分32と第2の横部分47との接触部分をヒートシール、接着剤等で封止すれば、紙製蓋材1の閉蓋状態では紙製容器41の内部を液密に、気密に閉塞することができる。

#### 【0013】

以上本考案を図面に示す実施の形態に基づいて説明したが、本考案は前記実施の形態に限定されることなく、実用新案登録請求の範囲に記載の構成であればどのようなようにでも実施することができる。

#### 【0014】

##### 【考案の効果】

以上要するに、本考案は1枚の厚手の紙材を原材料として、プレスによる絞り成形によって蓋面部と、前記蓋面部の周縁から外向きに設けた鐳部とを有する一体に成形した紙製蓋材であって、前記鐳部は、蓋面部の外端縁から上方に向って延びる第1の縦部分と、前記第1の縦部分の上端から外側にほぼ水平に延びる第1の横部分と、前記第1の横部分の外端縁から下方に向って延びる第2の縦部分とで構成することにより、前記第1の縦部分の外側と、第1の横部分の下側、及び第2の縦部分の内側とにより囲まれる下面開放の溝部を構成したことを特徴とする。

#### 【0015】

また、前記蓋面部には、周縁部分を除いて上方に盛り上がる浮き上がり部を形成することにより、浮き上がり部の外周縁と鐳部との間に上方が開放する溝を形

成した構成である。

【0016】

したがって、厚手の紙材を1回のプレスできわめて簡単に、しかも高い寸法精度によって紙製容器を製造することができるばかりでなく、外周縁に設けた鍔部の溝部及び蓋面部と鍔部との間の溝とにより著しく強度が高いため、外部からの衝撃があっても変形しないし、被着する容器の内容物を確実に保護することができる。しかも、蓋面部の周縁部分や横部分で容器の上面にヒート・シールできるので、容器の内部を密閉することができ、特に弁当箱の蓋材として、若しくは惣菜の容器の蓋材として使用することにより、実用的価値の高い蓋材を供することができる。